

## 交流小史

### 昭和58年5月

日本海中部地震により鱒ヶ沢町が被災。当市より義援金を送る

### 平成16年6月

大川目地区で富田得治氏を講師に歴史講演会を開催

### 平成16年7月

大川目中学校の生徒が鱒ヶ沢町の「光信公の館」を見学。鱒ヶ沢第二中学校（現鱒ヶ沢中学校）の生徒と交流

### 平成23年3月

東日本大震災被害に鱒ヶ沢町より救援物資が届く

### 平成24年10月

久慈市地元学講演会で富田得治氏、中田書矢学芸員が講演

### 平成27年10月

光信公慰霊祭に久慈市から初参列（現在も継続）

### 平成28年8月

台風10号被害に鱒ヶ沢町より救援物資が届く

### 平成29年6月

鱒ヶ沢地区町内会連絡協議会関係者が久慈市を訪問

### 平成29年11月

アンバーホールで「光信公の館」移動展示会を開催

### 平成30年8月

遠藤市長が鱒ヶ沢町を訪問。平田鱒ヶ沢町長と意見交換

### 平成30年9月

平田鱒ヶ沢町長が久慈秋まつりに参加

### 平成30年10月

久慈市と鱒ヶ沢町が「歴史文化で結ぶ友好協定」を締結

### 平成30年11月

アンバーホールに鱒ヶ沢町の紹介展示コーナーを開設

### 平成31年3月

高校生地域づくり団体「INSPIRE」が鱒ヶ沢町を訪問予定

## 鱒ヶ沢町の紹介

鱒ヶ沢町は、東西22km、南北40kmと南北に細長く、総面積343.08km<sup>2</sup>。町土のおよそ8割は山林で占められています。北は日本海、南には世界自然遺産白神山地を有し秋田県に接しています。

市街地は海岸線に沿って形成されているほか、赤石川、中村川、鳴沢川の流域におよそ40の集落が点在しており、総人口は10,029人（平成31年1月末現在）。気候は日本海に面した海岸部では、対馬海流の影響から積雪が比較的少ないものの、山間部は豪雪地帯となっています。

鱒ヶ沢町の歴史は古く、1491年に津軽藩始祖大浦光信公が種里に入部したことから、津軽藩発祥の地とされています。【鱒ヶ沢町HPより抜粋】



復元した光信公の甲冑

「光信公の館」移動展示会  
平成29年11月には、九戸歴史民俗の会が主催となり、アンバーホールで「光信公の館」移動展示会を開催。津軽家ゆかりのコレクションをはじめ、光信公の関連史料、発掘調査の出土品など約200点が展示されました。5日間の展示期間中、約800人の来場者が訪れ、帰ってきた久慈の武将に思いをはせました。



協定書を掲げる  
遠藤市長と平田町長（右）

## 新たな交流の歴史

これまでも、さまざまな交流を続けてきた両市町ですが、友好協定の締結により、今後は観光や産業振興などでも連携を強化していきます。光信公が久慈から鱒ヶ沢の地に赴いてから約500年。今また、新たな久慈と鱒ヶ沢の交流の歴史が始まろうとしています。

# 久慈市・ 鱒ヶ沢町 交流の歩み

大浦光信公の銅像（種里城跡）

平成30年10月3日、久慈市と鱒ヶ沢町は「歴史文化で結ぶ友好協定」を締結しました。この協定は、津軽藩始祖の大浦光信公が久慈出身という縁がきっかけ。この協定締結以前から、両市町では交流が続けられていました。その歩みを振り返ってみましょう。

## きっかけは災害時支援

両市町間の交流は災害時支援から始まりました。昭和58年5月、日本海中部地震が発生。大きな揺れと津波が鱒ヶ沢町を襲いました。かつて経験したことのない災害に見舞われた鱒ヶ沢町に、当市は義援金を送りました。

東日本大震災のときには、鱒ヶ沢町からペットボトル飲料水が救援物資として届けられました。台風10号災害時にも同様に救援物資が届けられ、災害時の相互支援が続いています。



光信公慰霊祭

## 大川目と鱒ヶ沢の交流

両市町の交流を幅広く発展させていこうと、平成16年には大川目公民館の歴史講座事業がスタート。鱒ヶ沢町の郷土史家、富田得治氏が大川目中学校で光信公について講演しました。また、大川目中学校の生徒たちが鱒ヶ沢町の種里城跡や光信公の館を訪問し、郷土の歴史について学習。この訪問はその後も続き、鱒ヶ沢第二中学校の生徒との交流会も開催されました。交流会では生徒たちが「私たちが友好の発信地となり、津軽と南部の懸け橋になります」と宣言。両校の交流事業は平成19年まで続けられました。

## 市関係者が鱒ヶ沢町を訪問

鱒ヶ沢町では、大永6年（1526）10月8日に死去した光信公の慰霊祭が、毎年行われています。平成27年に「九戸歴史民俗の会」が参列。その後も継続して市関係者が参列し、交流が深められてきました。平成30年には、遠藤市長が鱒ヶ沢町を初訪問。平田衛町長と意見を交換しました。



酒井 久男さん  
九戸歴史民俗の会 会長

## 光信公に関する著書を発行

大浦光信について「青森県史 資料編 中世2」をもとに、研修用読本「高屋豊前覚書」久慈の武将南部（大浦）光信公に関する高屋家の文書「」を発行しました。

津軽について、詳しくない人にも分かりやすいよう、解説をつけ現代文にしています。資料を読み解くと、光信公は久慈出身で南部氏の一族であるとされ、津軽地方でも近年認めるようになっていきます。

## 団体としての交流

九戸歴史民俗の会では、会の理事を務め、大川目公民館に在職していた桜庭明氏が、光信公の縁により鱒ヶ沢町と交流を深めてきました。平成27年からは、毎年慰霊祭に参

加。それらの交流が、光信公の館移動展示会の開催につながりました。

## 今後の交流へ期待

友好協定を契機に歴史や文化、観光などそれぞれの分野で協力していきますが、ある程度まとまらなると、交流の太い流れにならないと思っています。官民が一体となった交流が必要です。両市町はそれぞれ違う文化があるので、お互いに刺激を受け合える。学校の授業やイベントを開催しても面白いかもしれません。津軽・南部と考えるとややこしくなりますが、お互いのことを知り、一緒に力を合わせていければと思います。